

⑫ 公開特許公報(A) 平4-75019

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

④ 公開 平成4年(1992)3月10日

G 02 C 11/00

8807-2K

審査請求 有 請求項の数 3 (全3頁)

⑭ 発明の名称 アイガード眼鏡

⑰ 特 願 平2-189986

⑱ 出 願 平2(1990)7月17日

⑲ 発 明 者 新 田 征 雄 福井県福井市二の宮5丁目14-3

⑳ 出 願 人 シーレックス株式会社 福井県福井市二の宮5丁目14-3

㉑ 代 理 人 弁理士 戸川 公二

明 細 書

1. 発明の名称

アイガード眼鏡

2. 特許請求の範囲

- ① リム1がレンズ全周囲を周包し、眼鏡側面には側面カバー2を有する眼鏡において、フロントリム部1と側面カバー部2とが構成する接眼部周縁に、軟性のフォームからなるスカート3を付設したことを特徴とするアイガード眼鏡。
- ② リム1がレンズ全周囲を周包し、眼鏡側面には側面カバー2を有する眼鏡において、フロントリム部1と側面カバー部2とが構成する接眼部周縁に、表面を樹脂フィルムで被覆された軟性フォーム製スカート3を付設したことを特徴とするアイガード眼鏡。
- ③ リム1がレンズ全周囲を周包し、眼鏡側面には側面カバー2を有する眼鏡において、フロントリム部1と側面カバー部2とが構成する接眼部周縁に、表面を加湿孔31を有する樹脂フィルムで被覆された連続発泡性軟性フォーム製のスカート3を付設したことを特徴とするアイガード眼鏡。

部周縁に、表面を加湿孔31を有する樹脂フィルムで被覆された連続発泡性軟性フォーム製のスカート3を付設したことを特徴とするアイガード眼鏡。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、サングラスや矯正眼鏡と顔面との間に軟らかな密封帯を設けた、掛け心地が良く外観がスマートなアイガード眼鏡に関するものである。

〔従来の技術および解決すべき技術的課題〕

外界からの眼への刺激、特に花粉症患者のアルカロイド刺激、コンタクトレンズ使用者の粉塵刺激、あるいは農薬散布時の散布農薬による薬品刺激などは、非常に不快な刺激であって、痒み、痛みを伴い、また角膜炎、結膜炎など眼病の原因となるので、健康上好ましくない。最近、コンタクトレンズ使用者や花粉症患者の増加に伴い、このような眼球への刺激に出会うことが多くなって

いるので、何らかの対抗措置が考慮されるべきである。現在採られている対抗措置は、せいぜい対症療法として目薬を注す程度に過ぎないのだ。もっと根本的な解決手段、即ち眼球に刺激が加わらないようにする手段が必要なのだが、現在はほとんど行われていない。その理由は、現在唯一の極めて有効な眼球への刺激回避手段はゴーグルの使用なのだが、ゴーグルは日常使用するにはあまりにも仰々しく不格好であり、しかも、掛け心地も良くないために、日常生活のスタイルとしては好ましくないためである。

また、涙の分泌量が少なくと眼精疲労や角膜炎が起きやすいのだが、最近、コンピューターやワードプロセッサなどの普及により、多くの人がモニター画面などを長時間凝視せざるを得ないのだが、この凝視は、まばたきの回数を減らして眼表面の涙量が減少する原因となり、目が疲れるのである。このときの疲れ目解消手段も、根本的な解決手段はなく、対症療法としての目薬の滴注のみである。

〔実施例〕

以下、本発明を添付図面に示す実施例に基づいて説明する。

第1図に示されるのは本発明の第1実施例である。

樹脂製眼鏡である第1実施例は、リム1がレンズ全周囲を覆うとともに、テンプル起端部が側面カバー2となるように製作されている。左右リム1・1と側面カバー2・2が構成する接眼部の裏面周囲にスカート3を貼着することによって、眼鏡を顔に掛けたときに、顔面と眼鏡の間を隙なく密封するようになっている。尚、レンズは曇り止め加工が施してある。

第2図に示されるのは本発明の第2実施例である。

樹脂製眼鏡である第2実施例は、リム1がレンズ全周囲を覆うとともに、眼鏡側面にフロントと一体成形された側面カバー2を持つように製作されている。左右リム1・1と側面カバー2・2が構成する接眼部の裏面周囲にスカート3を貼着す

本発明は、上記の現状に鑑みてなされたもので、眼球刺激や眼表面涙量の減少による眼の異常に目薬の滴注以外の根本的な解決手段を提供することを技術的課題とするものである。

〔課題解決のために採用した手段〕

本発明者が上記課題解決のために採用した手段を添付図面に示す実施例に基づいて説明すれば、以下のとおりである。

即ち、眼鏡のリム1がレンズ全周囲を周包して、眼鏡側面には側面カバー2が設けてある眼鏡において、リム1と側面カバー2とが構成する接眼部周縁に、軟性フォーム製のスカート3を付設し、このスカート3は必要なら全表面樹脂フィルムコートするか、あるいは加湿孔31を有する樹脂フィルムでコートするという手段を採用することによって、眼球刺激と眼表面涙量過少による眼の異常を防ぐアイガード眼鏡を提供したのである。但し、ここでいう軟性フォームとは、軟らかいフォームのことで必ずしも軟質フォームとは限らない。

ることによって、眼鏡を顔に掛けたときに、顔面と眼鏡の間を隙なく密封するようになっている。スカート3は連続発泡性の高発泡フォームの表面にフォームの崩れ防止のため樹脂フィルムであるラバーのコートを施してある。このラバーフィルムは多数の加湿孔31・31・…が設けてあり、フォーム内の水分が気化できるようにしてある。使用前に、フォームに水を含ませておくと、使用中にこの水分が顔面と眼鏡との間の空間に気化して、眼表面からの涙の蒸発を防ぐ。尚、レンズは曇り止め加工が施してある。

本実施例は以上のように構成されるが、本発明は上記実施例にのみ限定されるものではなく特許請求の範囲内で種々の変更が可能である。特に、フォームの崩れ防止のため加湿孔を持たない樹脂製フィルムをスカートに被覆させるなどの変更も本発明の範囲内に含まれる。

〔本発明の効果〕

以上、実施例に基づいて説明したとおり、本発

明のアイガード眼鏡は、軟らかなスカートが設けられて顔面と眼鏡の間が密封されてることによって、極めて高い防塵効果を有し、また眼表面からの涙の蒸発も制限する。また、スカートが水分を補給できるようになっていれば、尚一層、涙蒸発防止効果は高い。しかも、スカートは軟らかなフォームで作られているので掛け心地も悪くないし、どんな形状の顔にも適合する。また、スカートは、普通の眼鏡の裏側に設けられているので、アイガード眼鏡を掛けたときにもほとんど目立たなく不格好でもない。

このように、本発明のアイガード眼鏡は、眼球刺激や眼表面の涙量過少の問題に根本的な解決手段を提供するもので、産業上の利用価値が極めて高い。

4. 図面の簡単な説明

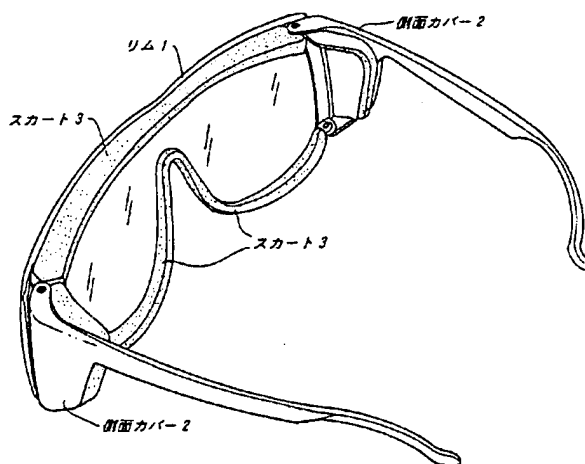
第1図は本発明の第1実施例を図示したもので、

第2図は本発明の第2実施例を図示したものである。

- 1…リム、
- 2…側面カバー、
- 3…スカート、
- 31…加湿孔。

特許出願人 シーレックス株式会社
代理人 弁理士 戸川 公 二

第 1 図



第 2 図

